

1. はじめに
2. 地域安全マップの意義
3. 地域安全マップの作成
4. 地域安全マップの活用
5. おわりに

子どもと街を犯罪から守る 地域安全マップをつくらう!

地域安全マップ作製指導マニュアル④

監修

立正大学文学部教授(社会学博士)
小宮 信夫



地域安全マップの意義



東京都



東京都地域安全マップ作成ガイド

はじめに

東京都では、子どもが犯罪から自分の身を守る力を高めるための手法の一つとして「地域安全マップづくり」を推進しています。地域の方にも、この「地域安全マップづくり」を知っていただき、小学校における「地域安全マップづくり」にご協力いただくとともに、地域の防犯活動にも応用していただきたいと思います。そこで、地域の方を対象に本マニュアルを作成しました。是非ご活用ください。

監修者メッセージ 「地域安全マップづくり」の特徴と目的



立正大学文学部教授
社会学博士
小宮 信夫

犯罪が起きた現場には、共通点があります。多くの犯罪者は、特定の条件を満たした場所で犯罪に及びます。
その条件が、誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい」というものです。
地域を点検し、こうした場所を地図に表したものが、地域安全マップです。「地域安全マップづくり」を学べば、どこに犯罪者が現れるのかを「予測」し、犯罪を「予防」することが可能です。
「地域安全マップづくり」は、子どもの犯罪被害防止能力を高める有効な手法として、東京都をはじめとして、全国の小学校で取組が進んでいます。大人の被害防止や地域社会の防犯対策にも有効です。ぜひ実践してみてください。

地域安全マップの考え方

犯罪現場には共通点がある

犯罪を実行したいという動機があっても、犯罪が成功する“機会”がなければ犯罪は起こりません。この犯罪機会論に基づき、研究の結果、犯罪が起こりやすい“場所”には誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい」という共通の特徴があることが分かっています。こうした特徴を踏まえて街を点検し、犯罪が起こりやすい“場所”を表示した地図が、地域安全マップです。



大人にも役立つ「地域安全マップづくり」

「地域安全マップづくり」は、子どもの犯罪被害防止能力を高める手法として注目されていますが、大人の犯罪被害防止にも役に立ちます。

「入りやすく」「見えにくい」場所は、ひったくりや車上ねらいなどの犯罪が起こりやすい場所でもあります。「地域安全マップづくり」を通じて、そうした場所を見極める能力を高めることができれば、犯罪を予防するための対策を講じることができます。

また、「地域安全マップづくり」に地域の方が協力して取り組むことで、住民同士や行政とのコミュニケーションが活性化し、地域の連携が強まるとともに、防犯に対する地域の関心が高まる効果も期待できます。



一緒に地域安全マップを作る地域のかみなさん

目次

| | |
|---------------------------|---|
| はじめに/監修者メッセージ/目次 | 1 |
| 地域安全マップの考え方 | 2 |
| 犯罪が起こりやすい場所とは | 3 |
| 地域安全マップをつくる ①ルールブック(街の点検) | 5 |
| 地域安全マップをつくる ②地図の作製 | 7 |
| 学校との連携 | |
| 地域の防犯活動への活用 | 9 |



犯罪が起こりやすい場所とは

誰もが「入りやすい」場所

誰もが「入りやすい」場所とは、犯罪者が怪しまれることなく、簡単に対象に近づける場所です。



トンネル (入りやすく見えにくい)



誰からも「見えにくい」場所

誰からも「見えにくい」場所とは、犯行が目撃されにくいため、発見・通報されることがなさそうな場所です。



入りやすい公園



見えにくい駐輪場



入りにくい公園



見えやすい駐輪場



公園を比較すると...

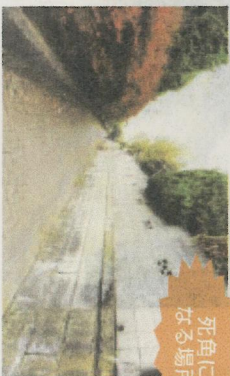
上の公園は、手前の遊歩道のどこからでも「入りやすい」ですが、下の公園は、フェンスや扉があり、「入りにくい」です。

駐輪場を比較すると...

上の駐輪場は、周囲から「見えにくい」ですが、下の駐輪場は、道路や住宅から「見えやすい」です。

「見えにくい」場所の4類型

物理的に「見えにくい」場所



死角になる場所

周囲からの視線がさえぎられています。



人の視線が
無い場所

一見、見通しがよくても、視線そのものがありません。

心理的に「見えにくい」場所



地域が
無関心な場所

落書き、ごみなどが放置されています。



不特定多数の
人が集まる場所

多くの人が集まる場所は、お互いが無関心となります。

POINT 犯罪が起こりやすい場所とは 「入りやすく」「見えにくい」場所です。

東京都の落書き消去支援活動

東京都では、地域の防犯意識を高めることを目的として、区市町村や警察署等が主体となり、地域の方が取り組む落書き消去活動に対し、塗料や資材の提供等の支援を行っています。

担当: 青少年治安対策本部 総合対策部 治安対策課 03-53388-2255

<http://www.seisyounen-chian.metro.tokyo.jp/chian/>

地域安全マップをつくる

①インターネットワーク (街の点検)

犯罪が起こりやすい場所 (危ない場所) の特徴が理解できたら、「インターネットワーク」に出かけます。誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい」というキーワードを使って、犯罪が起こりやすい場所がないか点検しましょう。また、安全な場所「入りにくく」、「見えやすい」場所) についても確認してみよう。

持っていくもの

- カメラ
- 地図
- 筆記用具
- パンダー
- 腕章など
目印となるもの

インターネットワークで「危ない場所」や「安全な場所」を見つけたら、写真を撮ったり、撮影した場所を地図に記録します。写真撮影の際、人の顔や家の中を撮ることはプライバシーの侵害につながりますので、注意します。



出発!



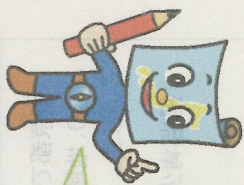
ご近所の方々と一緒に出発しましょう!

チェックポイント



ガートレール

ガードレールのある道は安全です。ただし、ガードレールの切れ目は、止まっている車に連れ込まれるなどの可能性があります。危険です。



しゃがんで
子どもの目線で見てみよう

子どもを扱う犯罪者は、子どもの目の高さになるようにしゃがんで声をかけます。その姿が周囲から見えないかどうかチェックポイントです。

チェックポイント



公園

周囲の家から見やすい公園は安全です。

チェックポイント



階段の隅り場

壁が多く死角になりやすい上、誰かいても不自然ではなく危険です。

チェックポイント



高い塀や生垣が続く道路

トンネルと同じ構造で、周囲から見にくいので危険です。

チェックポイント



駐車場

入り口ローアングルスがある駐車場は、入りにくく安全です。

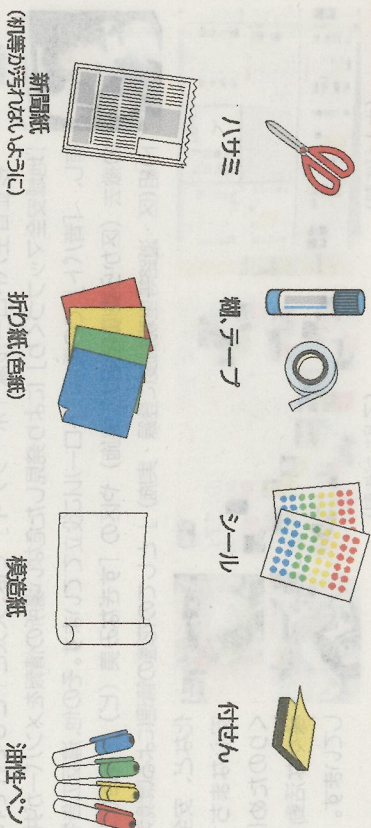
地域安全マップをつくる

②地図の作製

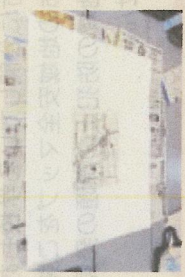
フィールドワークで撮影した写真を地図に貼って地域安全マップをつくります。
フィールドワークを通して点検した問題が起りやすい場所（危ない場所）や安全な場所について話し合い、情報共有をしましょう。



用意するもの



1 地図を貼る



模造紙の中央に拡大した地図を貼ります。

※地図は、区市町村や町会自治会などが作成しているものを利用するとよいでしょう。

2 調査ルートを記入する



調査したルートに色を塗りま

3 シールと写真を貼る



「危ない場所」「安全な場所」を丸シール等で色分けて表示し、特徴がよく分かる写真を貼りま

す。写真に表札、車のナンバーなど、プライバシーの侵害につながるものが写っている場合は黒塗ります。

4 コメントをつける



写真の場所がなぜ「危ない」「安全」なのかを「入りやすい」「見えにくい」というキーワードを使って書きます。

【コメントの例】
「この公園は柵が無くどこからでも入りやすい、周囲は木で囲われているので誰からも見えにくい、だから危険。」

5 完成!



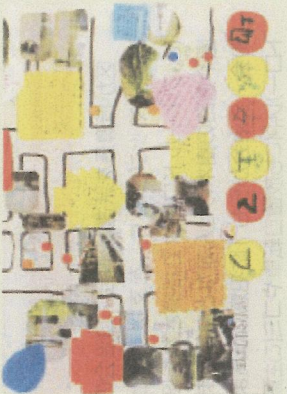
以上の作業で地域安全マップのできあがりです。

東京都の地域安全マップ作製指導員の派遣制度

東京都では、町会や防犯ボランティア団体などの地域団体や学校、PTAなどが地域安全マップづくりを行う場合に、作製指導員を派遣しています。

担当:青少年治安対策本部 総合対策部 安全・安心まちづくり課 03-5388-2282

※http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/tokyo/103_02a.html



学校で子どもが地域安全マップを作製する場合は、正確な地図を描くことが目的ではないので、模造紙にフリーハンド（手書き）で地図を描くことで、すべての子どもが「地域安全マップづくり」に参加できるようにし、創作意欲を高めています。

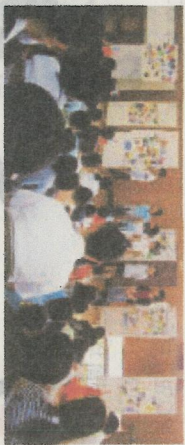
学校との連携 地域の防犯活動への活用

学校へ情報提供をする

「地域安全マップづくり」を通して発見した犯罪が起こりやすい場所（危ない場所）等の情報を学校へ提供していただくことで、学校と地域が一体となった子どもの安全確保のための取組につながります。

学校での発表会に参加する

「地域安全マップづくり」の発表会を地域の方に公開している学校もあります。子どもたちの地域安全マップをご覧いただくことで、地域の防犯上の課題の発見があるかもしれません。



学校での「地域安全マップづくり」に協力する

子どもたちが班に分かれてフィールドワークをする際に、同行して指導していただける方が必要です。学校から依頼があった場合にはご協力をお願いします。



事例紹介

八王子市での取組

八王子市立柳田小学校では、保護者の協力を得て5年生のときに地域安全マップを作製し、6年生ではそれを活用してさらに理解深める学習を行っています。授業に地域のボランティアの方を招いて話を聞く、「自分たちが地域の安全のために何ができるか」という班学習で保護者の参加を得ながら話し合いをするなど、地域の人々と連携した安全教育に取り組んでいます。



墨田区での取組

区が指導員を派遣し、町会・自治会の「地域安全マップづくり」を支援するとともに、フィールドワークで指摘された区の公園や道路の樹木のせん定などを行いました。町会・自治会からも「防犯意識が高まり、パトロール中にも放置自転車やゴミに注意するようになった」と好評です。区では「犯罪者に犯罪の機会を与えないこと」によって犯罪を予防する考え方を「知っていただくために、印刷した地域安全マップを配布していま



台東区での取組

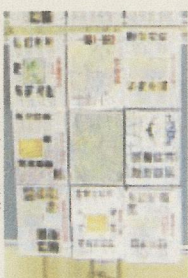


池之端児童館では、小学生が、普段自分たちが遊んでいる地域を点検し、慣れているはずの街の中にも犯罪が起こりやすい場所（危ない場所）があることを学びました。発泡入子ロールの大きな版に地図を描いて、写真やコメントを貼り付けました。できあがった地域安全マップについては、ビニールをかけて館外に掲示し、地域の方にも「地域安全マップづくり」の活動を知ってもらいました。

地域団体(杉並区)での取組



杉並自主パトロール隊「ホークアイ」では、大人と子どもそれぞれが「地域安全マップづくり」により発見した危ない場所の情報をメンバーが共有し、「青バト」での重点パトロールに役立てています。その他、違反広告物の撤去（区から委嘱を受けて実施）や区の「すぎなみ美（ど）・道路（ロード）組（区・道路等里親制園に登録・実施）」としての花壇の管理による環境美化など、安全・安心なまちづくりのために様々な活動を行っています。



（大人が作製）



（子どもが作製）



※「青バト」：青色回転灯を装備する自動車による自主防犯パトロールを適正に行うことができる旨の証明を受けた民間防犯ボランティア団体や行政機関が防犯パトロールに使用する青色回転灯を装備した自動車

監修者のプロフィール

小宮 信夫 (こみや のぶお)

立正大学文学部教授(社会学博士)。

中央大学法学部法律学科卒業。

ケンブリッジ大学大学院犯罪学研究科修了。

法務省、国連アジア極東犯罪防止研修所などを経て現職。

専攻は犯罪社会学。地域安全マップの考案者。

現在、東京都「地域安全マップ専科総合アドバイザー」、群馬県「生活安全教育アドバイザー」、長崎県「安全・安心まちづくりアドバイザー」など。

著書に『犯罪は「この場所」で起こる』(光文社新書)など。

監 修 立正大学文学部教授(社会学博士) 小宮 信夫

編 集 東京都地域安全マップ教材編集委員会

委員長 小宮 信夫 立正大学文学部教授(社会学博士)

委 員 矢部 崇 教育庁指導部

委 員 江崎 徹治 警視庁生活安全部

委 員 後藤 了 青少年・治安対策本部総合対策部

委 員 武田 宗洋 青少年・治安対策本部総合対策部

企 画 東京都青少年・治安対策本部総合対策部
安全・安心まちづくり課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8 番1号

制 作 株式会社メディアンスフリー
〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目18番11号
ル・グラシエルBLDG.16 2F

東京都の安全・安心まちづくりに関するポータルサイト

「大東京防犯ネットワーク」→<http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/>

転載を希望する場合は、東京都青少年・治安対策本部総合対策部 安全・安心まちづくり課 (03-5388-2282) までご連絡ください。